



平成10年度優秀映画鑑賞推進事業

けんかえれじい

肉弾

青春残酷物語

青い山脈



また逢う日まで

遠雷

日本映画史を代表する不朽の名作を一堂に

# コラーレ日本映画名作劇場

黒部市国際文化センター **コラーレ**  
(カーターホール)

入場料/一回券 **500円**

三回券綴り **1,000円**

※チケットは全映画共通です。

■ お問い合わせ  
財団法人黒部市国際文化センター  
TEL(0765)57-1201 FAX(0765)57-1207

- A** 青い山脈《前・後篇》  
(1949年/172分/白黒)
- B** また逢う日まで  
(1950年/109分/白黒)
- C** 青春残酷物語  
(1960年/96分/カラー)
- D** けんかえれじい  
(1966年/86分/白黒)
- E** 肉弾  
(1968年/116分/白黒)
- F** 遠雷  
(1981年/135分/カラー)



	1/ 29(金)	30(土)	31(日)	2/ 1(月)	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	7(日)
14:00		<b>B</b>	<b>D</b>		上映なし	上映なし			<b>A</b>	<b>E</b>
17:00			<b>E</b>							
19:00	<b>A</b>	<b>C</b>		<b>F</b>			<b>D</b>	<b>B</b>	<b>F</b>	

# 作品リスト

## ■青い山脈《前・後篇》



〔1949年 藤本プロ=東宝〕

原作……………石坂洋次郎  
脚本……………井手 俊郎  
監督・脚色……………今井 正  
製作……………藤本 真澄  
撮影……………中井 朝一  
音楽……………服部 良一  
美術……………松山 崇

### 〔出演者〕

原 節子 小暮実千代 池部 良  
伊豆 肇 竜崎 一郎 若山セツ子  
杉 葉子 山本 和子 三島 雅夫  
田中 栄三 藤原 釜足 生方 功  
岡村 文子 高堂 国典 英 百合子

女子高生がいたずらで出したラブレターがもとで、封建的な因習の残る小地方都市が大騒ぎになる。戦後民主主義の一つの理念であった女性解放を明朗快活なユーモアのうちに描き、大ヒットとなった作品。原節子扮する理想に燃える知的な女教師が、俗物をきどる青年校医に平手打ちをくわせる。その彼女の明快な意志と、海岸に寝そべる杉葉子の健康で官能的な肢体とは、べらんめいで気っ風はいいが旧時代の存在である芸者に、身をひかせるに充分な新時代の象徴であった。最新作の『青い山脈'88』を含めて5回再映画化されている。

(1949年/172分/白黒)

## ■また逢う日まで



〔1950年 東宝〕

脚本……………水木 洋子  
"……………八住 利雄  
監督……………今井 正  
製作……………坂上 静翁  
撮影……………中尾駿一郎  
照明……………平田 光治  
録音……………下永 尚  
音楽……………大木 正夫  
美術……………河東 安英

### 〔出演者〕

岡田 英次 久我 美子 滝沢 修  
河野 秋武 風見 章子 杉村 春子  
林 孝一 芥川比呂志 大泉 滉  
近藤 宏 南 美江

この作品はロマン・ロランの小説「ピエールとリュイス」を下敷きしているが、この映画化を今井正に勧めたのは岡田英次とのことである。その脚本を担当したのが、当時新進の水木洋子。彼女は回想とナレーションを巧みに用い、甘口になりやすいこの題材を、ある青春の悲劇として見事に立体化してみせた。戦争下に青春を送った世代に激しくアピールしたことは今日十分首肯できる。〈ガラス越しの接吻〉が象徴するものは主人公達の精神性、時代の閉塞性だろうが、それらを見つめる今井監督の静かな視線が、この映画を声高な反戦映画ではなく、内面的なそれとして成功させたと言える。

(1950年/109分/白黒)

## ■青春残酷物語



〔1960年 松竹(大船)〕

監督・脚本……………大島 渚  
製作……………池田 富雄  
撮影……………川又 昂  
照明……………佐藤 勇  
録音……………栗田周十郎  
音楽……………真鍋理一郎  
美術……………宇野 耕司

### 〔出演者〕

桑野みゆき 川津 裕介 久我 美子  
渡辺 文雄 田中 晋二 林 洋介  
松崎慎二郎 小川トシ子 二本柳 寛  
山茶花 究 森川 信 浜村 純  
佐野 浅夫 佐藤 慶

〈これは若い怒りを歪んだ形でしかぶつけられなかった若者たちの物語である。その歪みが、美しくあり得た彼らの青春を無残な敗北の中に追い込んでいく悲劇を通して、現代の青春を取り巻く状況への烈しい怒りをたたきつけたい。〉日本のヌーヴェル・ヴァーグの旗手であった大島渚監督は、演出ノートにこう記している。

〈美人局〉まがいの行為で互いに破滅していく若い男女の生々しい欲望と行動を、戦後民主主義運動に挫折した彼らの先行世代と対比して描いたこの作品は、60年安保闘争のただなかに発表され、若手批評家や顧客の強い支持を勝ち取った。

(1960年/96分/カラー)

## ■けんかえれじい



〔1966年 日活〕

原作……………鈴木 隆  
脚本……………新藤 兼人  
監督……………鈴木 清順  
企画……………大塚 和  
撮影……………萩原 憲治  
音楽……………山本 直純  
美術……………木村 威夫

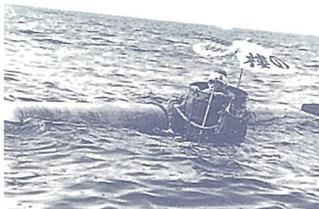
### 〔出演者〕

高橋 英樹 浅野 順子 川津 裕介  
松尾 嘉代 片岡 光雄 野呂 圭介  
恩田清二郎 宮城千賀子 加藤 武  
玉川伊佐男 浜村 純 佐野 浅夫  
長 弘 立川 博

松竹ヌーヴェル・ヴァーグなどの進歩的な映画監督たちが新しい映画の形態と作家性を模索する一方、プログラム・ピクチャーの制約のなかで異質な作品を生み出した鈴木清順は、60年代後半に若い世代の圧倒的な支持を受けて突出した存在となった。新藤兼人の脚本を得て喧嘩に明け暮れる青春を描いたこの作品は、彼のフィルムグラフィーの中でも最も幅広い支持層を持つポピュラーな一篇である。二・二六事件を背景に暗示する終盤で、昭和史への言及がなされているが、会津若松の喫茶店に、同事件に連座して処刑された国家社会主義者、北一輝を登場させているのは鈴木清順自らの創作であったといわれている。

(1966年/86分/白黒)

## ■肉弾



〔1968年 『肉弾』を作る会/ATG〕

監督・脚本……………岡本 喜八  
製作……………馬場 和夫  
撮影・照明……………村井 博  
録音……………渡会 伸  
美術……………阿久根 巖  
音楽……………佐藤 勝

### 〔出演者〕

寺田 農 大谷 直子 伊藤雄之助  
小沢 昭一 田中 邦衛 笠 智衆  
北林 谷栄 中谷 一郎 高橋 悦史  
天本 英世 春川ますみ 仲代 達矢

ユニークな娯楽作品にその優れた才能を發揮していた岡本喜八監督が従来の商業映画の枠を越えて、自分の戦争体験を直接的に描き込んだ作品である。岡本監督は昭和20年8月15日を豊橋の陸軍予備士官学校で迎えており、この時21歳。この作品の主人公「あいつ」が全く同じ年齢であることから、この言わば「私映画」の自主製作に賭けた監督の思いを感じることができよう。大胆な戯画化を通して、死と共に在った青春の滑稽さと悲しさが表現されており、それはラストシーンの鋭い対比に連なっていく。戦後の繁栄とドラム缶の中のガイコツ。戦争や国家を問う岡本作品のこの主題は、後の『大誘拐』(91年)にも現われている。

(1968年/116分/白黒)

## ■遠雷



〔1981年 につかつ撮影所=ニューセンチュリープロデューサーズ=ATG〕

原作……………立松 和平  
脚本……………荒井 晴彦  
監督……………根岸吉太郎  
撮影……………安藤 庄平  
音楽……………井上 堯之  
美術……………徳田 博

### 〔出演者〕

永島 敏行 ジョニー大倉 石田 えり  
横山 リエ ケーシー高峰 七尾 怜子  
原 泉 藤田 弓子 森本 レオ

撮影所(日活)で育った最後の世代である、監督の根岸吉太郎とシナリオ作家の荒井晴彦が、立松和平の同名小説をもとに作り上げた、80年代を代表する瑞々しい青春映画。都市=宇都宮市の近郊でトマト作りに精を出す若者の姿が、旧来の農村青年的なステレオタイプではなく、日常感覚豊かに生き生きと描きだされている。お見合いの席からホテルに直行、やがてその女性と結婚していく主人公と、人妻と不倫し、そのあげく殺害してしまう友人が対照的に描かれている。結婚する夜、二つの青春の光と影があらわになる。ピニールハウスの場合はとりわけ印象深い。日本映画が産業として衰退していかぬか、1971年にロマンポルノの製作に踏み切った日活。その製作陣のなかから、次世代を担う新しい才能が誕生したことを告げ知らせた作品でもある。

(1981年/135分/カラー)